
Last Christmas

関与

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Last Christmas

【Nコード】

N1298J

【作者名】

関与

【あらすじ】

2012年、本当に地球は終わるのか？

地球、最後の日と呼ばれる日が近づいた都内でのストーリー

白い雪が、街を包み込む。

街灯の明かりの前を雪が舞い、きらきらと輝いて見えた。

2012年12月20日木曜日午後8時の事である。

1人の男は、その光景をどのような思いで見つめていたのだろうか？

俺は外丸とまる 賢一けんいちだ。

そして、真横には彼女の西中にしなか 有紗ありさが居る。

LEDと呼ばれる発光ダイオードがクリスマスツリーを彩る街は、カップルや家族連れで賑わって、人で溢れている。

……はずだった。

「さすがに誰も居ないね」

「そりゃまあ………そうだろ」

閑散とする街を見て、俺は言った。

クリスマス前だから、木曜日といえど街は人で溢れているはずだ。ましてや午後8時、これ以上無いぐらいに人がごった返す時間帯なのに、そんなカップルは数えるほどしか見つからない。

理由はいたって簡単だ。

『家族と一緒に過ごしたい』

『自宅に居たい』

『最期ぐらい、自由に……』

これに尽きる。

東京の中心部となれば、高層ビルや巨大デパートが立ち並んでいる。あるデカイビルの屋上めがけて、首を上げるとそこにはテレビが設置されていた。

午後8時という視聴率が稼げる時間帯にも関わらず、ニュース番組を映している。

ひっきりなしに伝えているのは、12月22日土曜日……あさつての事だ。

テロップと共に、現状や対策方法を説明していた。

『22日 地球は、本当に死すのか!?!』

右上に、白色の文字で書かれていたテロップが街中の人々の視線を集めている。

当然、俺たちもその画面を見つめる訳で。

「ホントに地球は終わっちゃうのかな？」

有紗が言った。

そう、2012年12月22日 地球が死すと言われる日だ。

数百年前、驚異的な天体観測技術を誇っていたマヤ文明

彼等は、その昔から一年は365日であると分かっていたという。

また、彼等の遺跡からは数々の想像を絶する技術が発見され、俺自身も知ったときは驚いたね。

そんな彼等が言うには、地球が今年の12月22日に消滅するのだ

とか。

他にも例によって、ノスタルダムスも同じ事を予言しているらしい。恐怖の大王は降って来なかったけど、こうもドンピシャで意見が一致しちゃうとね……………。

この件は、随分前から報道されていた。

俺はそういう予言や予測は信じないほうだから、殆ど気にも留めていなかったのだが、実際目前に迫ってくると気になる。

だから、そんな暗い気持ちを晴らすためにも有紗と街に繰り出しているわけだ。

幸いというか、俺には血の繋がった連中がこの世に誰一人としていない。

両親は早くして交通事故で死んでしまっているし、その後引き取られた祖父母も俺が中学生の時に揃って旅立っている。

と言う訳で、「死」というものに慣れているというか……………恐怖感は無。

だが、実際問題もうすぐ死んでしまふとなるとやり残している事も多いのが俺の不満な点だ。

趣味も仕事も勉強も……………ね。

……………もちろん、有紗とも会えなくなってしまうのも嫌だし。

「有紗、お前は明後日どうするの？ 世界が終わるその瞬間、君は何処で誰と何をしていたい？」

ネオンが眩しい街中を歩きながら俺は聞いてみる。

「そうだねえ……………賢一と一緒に居ようかな」

「マジメに？」

「うん、マジメに」

その刹那、俺の左腕が引つ張られた。
もちろん引つ張ったのは有紗だ。

「じゃあ、22日は私の家に居てよ。私を絶対に守ってね……」

又ハーツ、YESツツツ!!

と、心の中では叫んだ。

もちろん、口には出さなかったのだが。

……だが、あながち有紗の目は真面目。

「正直な話、みんな死にたくはないと思うんだよね」
有紗は続ける。

「けど、もし本当に地球が壊滅的な自然災害を起こしてしまったら……絶対に死んじゃう人は出ちゃうと思うんだ。だから、もしそう
なったら絶対守ってね」

「分かった……」

白い雪が舞い散る中、一つの約束が交わされた

もしも、本当に世界が終わってしまうなら、俺はその時何を
するんだろう？

やり残した、自分の夢を頑張るのか、はたまた自由気ままに生きる
のか。

でも、最期に誰かの役に立てるのならそれは嬉しい事かもしれない。

そして、何としても有紗を守ってやりたい。

2000人だけ、新たな世界に連れて行ってもらえるという話もある

るといふ。

だったら、それに……有紗を選ばさせりゃいいんだろっ？
俺は………負けない。

いずれにせよ、俺の最期は面白い事になりそうだ。

そう、舞い降りる白い雪を見つめながら思う

(後書き)

いや、2012年どうなるんですかね？(汗

俺はまだまだ色々やり残しているんで死にたくないです。

いつかは人間、死んじゃいますけど、まだ早いよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1298j/>

Last Christmas

2010年10月27日07時15分発行